

令和8年度 医療従事者の負担軽減計画

対象	分類		現状・問題点	対応方針	具体的な計画	目標達成
医療従事者	(イ) 外来診療時間の短縮、地域の他の保険医療機関との連携などの外来縮小の取組	外来診療時間の短縮	患者数の減少に 対峙した人員配置の適正化	外来診療体制の再編に人員配置の効率化を目指す。	さらなる午後診療の縮小化。 逆紹介の促進。 紹介患者重視の姿勢を継続するが連携先へ紹介患者の受付時間について周知徹底し時間外とならないよう図る。 外来業務の効率化と労働力の再配分を図る。	実施済み (令和8年度も継続)
		地域の他の保険医療機関との連携	紹介受診重点医療機関への移行	令和5年8月に指定済み。今後も紹介/逆紹介を推進する。	安定的な治療はかかりつけクリニックへ任せ患者数の減少を図りながら、紹介患者等への高度な治療を担うよう目指す。	実施済み (令和8年度も継続)
	(ロ) 院内保育所の設置(夜間帯の保育や病児保育の実施が含まれることが望ましい)	夜間帯の保育の実施	月4回程度実施の方針であるが、行政の保育料負担軽減策により当園利用者が減少している。	継続して実施する。	復職時の途中入所等で利用者が回復する見込みである。利用者の勤務希望と調整して対応継続する。	実施済み (令和8年度も継続)
		病児保育の実施	人員確保、開始行程について再考中。	計画内容を再設計し実施する。	設備整備・人員確保と運用手順の整備を行い設置許可申請を行う。	実施準備中 (令和8年度内目処)

(ハ) 医師事務作業補助者の配置による医師の事務作業の負担軽減		医師事務作業補助者の対応拡大	各診療科・各医師の負担状況を評価して順次対応先の拡大を行っていく。	医師事務作業補助者の配置により医師の診療業務等の負担が減少し作業効率が向上することにより診療業務従事時間の短縮を図る。	順次拡大 (令和8年度も継続)
(ニ) 医師の時間外・休日・深夜の対応についての負担軽減及び処遇改善		更なるタスクシフトの推進が必要	各職種で新たな取組みを模索する。	各職種にて引き続き協力体制の強化について検討継続する。	実施中(検討継続中) (令和8年度も継続)
(ホ) 特定行為研修修了者の複数名の配置及び活用による医師の負担軽減		特定行為研修修了者の活用が不十分	特定行為研修修了者の活用強化	特定行為研修修了者の活用状況を再評価し、実現に向けたシナリオを策定して取り組んでいく。	目標再設定
(ヘ) 院内助産又は助産師外来の開設による医師の負担軽減		助産師外来ではないが妊産褥婦の相談等に対応している。	継続	夜間、休日は助産師のオンコール体制を実施し医師の負担軽減につながっている。	対応変更し実施中
(ト) 看護補助者の配置による看護職員の負担軽減		看護補助者の確保が困難	多様な人材を獲得し看護補助者配置を促進する	あらゆる採用経路を駆使し、高年齢者、外国人技能実習生、障害者等の採用も視野に人材確保を行う。	実施済み (令和8年度も継続)